

編集委員会委員

室谷正裕

MUROYA, Masahiro

国土交通省航空局管制保安部長

昨年から編集委員を仰せつかっております。本籍は国土交通省であり、現在は航空局に勤務しております。実は、運輸政策研究機構とは縁が深く、当機構が創設された当初、主任研究員として2年間お世話になりました。もちろん(?)研究員とは名ばかりで、文系のしかも着任時点で既に40を超えていた私には、難解な数式を理解したり、ましてや駆使しての高級な研究などできるはずも無く、四苦八苦の毎日でした。それでも、初代の中村所長の薫陶を受けることができたのは人生の大きな喜びでした。所長の、研究においては妥協を許さない厳しさと断固としたスタイルは、行政マンとして日々、根回し、調整、先送りもしくは妥協…の行動パターンにならされてきた者には、驚きであり、新鮮でもありました。科学は客観性が命だとのお言葉は今でも鮮明に覚えております。また、草創期の研究員の皆さんも多士済々で、政策研究に対する意気込みと熱い思いには大いに刺激を受けました。

さて、前置きが長くなってしまいました。運輸政策研究機構は、自主独立のシンクタンクとして、政策評価、政策提言を行うこと、また、それに繋がる研究を行うことが大きなミッションの1つです。その発表の場であり、政策研究のプラットホームでもある季刊「運輸政策研究」も今回が44号ということですから、10年以上にわたって運輸政策に関わる多くの人に対し、研究者であれ、政策担当者であれ、実務・事業者であれ、計り知れないインパクトを与えてきたものと思います。また、昨今の憂慮すべき状況の中で運輸政策研究の果たす役割は益々重要になってきていると思います。科学的な深い洞察無くして真理の探求も新たなそして確実な社会の進歩も望めないのですから。

ということで、行政の立場から、運輸政策研究に期待することを少し書いてみたいと思います。

今の我が国にとってはこれまで以上に明確な成長戦略を示すこと、そしてそれを実践していくことが求められていると思います。その中で、港湾や空港が国際競争力強化に果たす役割は極めて重要です。中国はじめ近隣諸国における力強い整備のあり方やその後の目覚ましい発展振りを見るに付け、国家戦略の重要性を痛感いたします。わが国では、特に首都圏空港の国際航空機能の強化が急がれます。幹線道路ネットワークのミッシングリンクの早期解消も渋滞の緩和のみならず物流の強化にとっても不可欠です。また、日本の強みとしてITSや高速鉄道システムのような総体としてのイノベーションも世界にアピールしていきたいものです。生活や都市環

境さらには国土を安全安心でしかも快適なものにしていくことは永遠の課題です。環境の分野でも技術面や低炭素型社会システムの実践面で先導的な役割が期待されており、宇宙、海洋、ツーリズムといった新たなフロンティアも広がっています。

これらの国家経営戦略を考える上で、交通運輸は共通の基盤であり、力の源泉であり、課題解決に向けた大きな可能性を秘めていると思います。これまでも、高速幹線物流システムの提案や交通インフラ整備水準の評価法、費用便益分析に関する研究などなど運輸政策研究で提案され、発表されたものがその後の政策の立案に大いに活用されています。

政府は、今の閉塞状況を打開すべく、「日本の底力の発揮」を旗印に様々な施策を展開中ですが、是非、政策研究の側からも世の中が良くなるような、元気が出るような提案や処方箋を期待いたします。ともすれば存在感が薄くなった行政を叱咤激励する意味でも斬新で骨太な研究や提言をお願いしたいものです。

次に、これらの研究や提言をよりホットなものにする仕組みについてです。フォローアップについては、本誌には誌上討議の制度もありますし、コロキウムや政策研究報告会などを通じた双方向の議論の場が用意されてはおりますが、理論と実務との橋渡しを標榜する運輸政策研究としては具体のアウトプットにつなげていくための一段の工夫が必要と考えます。その点、私にできることとしては、せいぜい投稿された論文に関係があると思しき政策担当者を査読員に推薦することであり、発表された論文を関係の部署に回覧することくらいですが、これからは研究の過程においても、もっと実務者や政策担当者との意見交換、情報交換の機会があってもいいのではないかと考えています。また、そのための環境整備が必要だと思います。勿論、純粋な研究を制約したり、歪めたりするようなことは論外です。そういうことではなく、早い段階から、問題意識や現状認識において議論しておくことは有用なことだと思います。理論と実務とは本来的には相対立するものでないとは思いますが、双方の適度な緊張関係や意識的なコラボがあればもっと具体のアウトプットにつながっていくことも多いのではないのでしょうか。特に運輸交通の分野での政策研究にはそのことが求められているように思います。皆さんの意欲的な政策提言をお待ちしておりますし、我々行政の側からも積極的な問題提起もしていきたいと思います。共に、交通運輸政策を通じて世の中を明るくしていきたいものです。